

【短報】東京都稲城市でマメチビケシキスイを採集

図1. マメチビケシキスイ♂
(稲城市大丸産)。

Fabogethes nigrescens (Stephens, 1830) は旧北区(ヨーロッパとその周辺)に分布し、北アメリカに移入されている種で、Hisamatsu (2019) が愛媛県下から日本初記録として報告し、マメチビケシキスイの和名を与えている。Hisamatsu (2019) によれば、本種はシロツメクサ *Trifolium repens* Linnaeus をはじめとする

マメ科植物を宿主とし、日本には最近になって移入されたいとのことである。筆者は本種を東京都稲城市で採集しているので、本州初記録として報告する。



図2. ♂交尾器中央片。

1♂、稲城市大丸(多摩川河川敷), 18. VI. 2019 (図1-4); 5♂♂、稲城市若葉台(上谷戸=かさやと), 6. IV. 2020. すべて筆者採集・保管。

多摩川河川敷では草地のスーピングで、上谷戸では花の咲いた



図3. ♂交尾器包片。

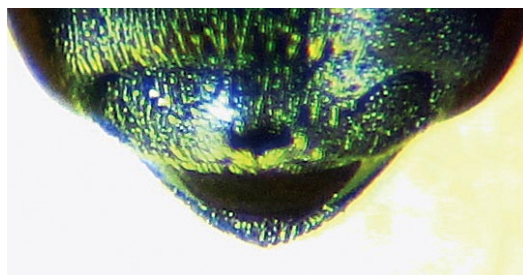


図4. ♂第7腹板。

イロハモミジ *Acer palmatum* Thunberg をスーピングして得た。

同定は Hisamatsu (2019) の示した諸特徴により、とりわけ交尾器(図2-3)が図示されたものとよく一致することと、♂第7腹板先端に光沢をもった横長の平圧部があるという記述に一致する特徴が見られること(図4)によった。

引用文献

Hisamatsu, S., 2019. New records of *Fabogethes circularis* (J. Sahlberg, 1903) and *F. nigrescens* (Stephens, 1830) (Coleoptera, Nitidulidae, Meligethinae) from Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 9 (2) : 349–351.

(伊藤 淳 183–0012 府中市押立町 5–1–25)

【短報】宮崎県におけるアカチビオオキノコの追加記録

アカチビオオキノコ *Tritoma takahashii* Nakane, 1966 は、九州の青井岳で採集された個体を基に記載された種であり、原記載以降、宮崎県高原町、鹿児島県佐多町、同県南大隅町から記録がある(生川, 2004; 生川・細川, 2014; 小田, 2019)。本種が集まるキノコについてはカワラタケ *Trametes versicolor* (L.) Lloyd が報告されている(生川, 2004)のみであり、その他採集状況としては、灯火への飛来(生川・細川, 2014) およびライトトラップ(小田, 2019) が報告されている。

筆者は、宮崎県都城市にて、本種をクジラタケ *Trametes orientalis* (Yasuda) Imazeki と思われるキノコから採集しているので報告する。

5 exs., 宮崎県都城市夏尾町御池, 3. V. 2019, 筆者採集(図1, 1 ex. は生川展行氏保管, 他は筆者保管)。

5頭とも苔むしたシデ類の倒木の側面から下面に生えた、クジラタケと思われる未熟なキノコから得



図1. 宮崎県産アカチビオオキノコ(左:背面, 右:腹面)。

られた(図2-4)。なお、当該キノコについては、同心円状の環紋および放射状のシワがある点、成長中の菌糸が白い点、縁部がやや分厚い点、裏面の管孔は細かいが肉眼的である点から、クジラタケである可能性が高いと判断した。

末筆ながら、本種の文献記録をご教示くださり、また同定いただいた生川展行氏、クジラタケについてご教示くださった大阪市立自然史博物館の佐久間大輔氏、標本写真を撮影くださった響田康彦氏、情報を下さった安藤真人氏に厚く御礼申し上げます。



図2. クジラタケ(推定)に集まったアカチビオキノコ。



図3. 本種が集まっていたクジラタケ(推定。右下および左上に本種がいる)。



図4. 採集地の環境。

引用文献

- Nakane, T. 1966. New or little known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXIV. Fragmenta Coleopterologica, (16): 64-66, 2 figs.
 生川展行, 2004. アカチビオキノコムシについて. 比和科学博物館研究報告, (43): 91-94, pl.1.
 生川展行・細川浩司, 2014. 興味深いヒラタムシ上科およびゴミムシダマシ上科の記録. さやばねニューシリーズ, (14): 22-25.
 小田正明, 2019. 鹿児島県稲岳岳山麓で採集した甲虫類 III. KORASANA, (91): 117-124.

(矢崎耀一 388-8007 長野市篠ノ井布施高田 652-1-303)

【短報】沖縄県渡名喜島におけるヒメヤマトケシマグソコガネの記録



図1. 採集されたヒメヤマトケシマグソコガネ。

沖縄県渡名喜島は沖縄本島の北西約60 kmの海上に位置する小さな有人島(面積: 3.58 km²)である。同島におけるコガネムシ類の調査研究はこれまでに数回行われており、14種の生息が確認されている(藤岡, 2001; 岡島・荒谷, 2012; 井上, 2013; 金子・吉武, 2019; Kaneko & Shigetoh, 2019)。今回、2018年夏の採集調査

によって得られた標本群の中から、渡名喜島初記録と思われるヒメヤマトケシマグソコガネ *Platytomus yadai* (Ochi, Kawahara & Inagaki, 2006) (図1)を確認したためここに報告する。

ヒメヤマトケシマグソコガネは Ochi *et al.* (2006) の記載時に多くの個体が確認されたものの、以降の採集例が小林 (2016) の一例のみしか記録されていない稀な種である。恩納村(沖縄県沖縄島)の海岸にて忽然と発生が確認されたことから、米軍基地などによる物資の搬入に伴い移入した可能性が示唆される一方で、発生期間が数日と極めて短いために、もとより生息はしていたが発見には至らなかった可能性も示唆されている(越智, 2012)。大量の個体が群翔し、灯火に飛来することが越智 (2012) に言及されており、強い走行性を有することが明らかとなっている。